

群 教 ゼ	E03 - 03
	平14.206集

相手の気持ちを考えて行動しようとする 態度を育む学級づくり

- 「ニコニコ忍者」を目指した活動と振り返りを通して -

特別研修員 佐藤 利章

《研究の概要》

本研究は、小学校4年生を対象に、「ニコニコ忍者」を目指した相手を思いやる活動と振り返りを通して、相手の気持ちを考えて行動しようとする態度を育む学級づくりができることを、実践を通して明らかにしようとしたものである。具体的には、学級内で思いやりある言動を行い合う活動、相手の気持ちを大切にしたい言動を話し合い、「忍術」を作る活動、取組を振り返り、相手の気持ちを考えた言動を行う価値を話し合う活動を行った。

【キーワード：学級経営 小学校 学級活動 学級づくり 人間関係】

主題設定の理由

小学校4年生段階の子供は、自己の行為の善悪について、ある程度反省しながら把握できるようになってくる。しかし、快活さや興味の拡大から、他の人々や社会など周囲のことまで考えが及ばない自己中心的な行動をしてしまう傾向がある。したがって、学級経営においては、自主的な活動場면을積極的に増やすとともに、相手の気持ちを考えて行動できる集団を育てていくことが大切であると考えます。

本学級の子供たち（4年生 男子7名・女子4名）は、素直で、認められると何事も進んでやろうとする積極性がみられる。5月に学級の問題点について話し合った結果、友達に対して親切にし、間違ったことに対しては率直に注意し合う雰囲気もできてきている。しかし、友達が欲していないことをよいことだと思い込んで行ったり、言葉の調子から言い争いに発展したりすることもある。その要因としては、今まで相手の気持ちを意識できるような体験の場があまりなかったため、深く考えず行動していて、相手の気持ちを考えて行動しようとする意欲につながる喜びや満足感を味わう経験が少なかったからであると考えます。

したがって、本学級の子供たちには、相手のために行動するという体験を活動の場を広げながら意図的に積み重ね、そこでの経験を土台として相手の気持ちを考えた望ましい言動に気づき、自分たちの活動の価値を自覚し、今後の生活に生かしていけるような学級活動の場を与えることが大切であると考えた。

そこで、このような学級の実態をふまえ、「ニコニコ忍者」を目指した活動への取組を計画した。それは、押しつけることなく、相手の気持ちを考えて行動できるという理想の姿を「ニコニコ忍者」にたとえ、友達の喜ぶことを見つけようとする意欲を持つ「めざせ！ニコニコ忍者」、相手の気持ちを大切にしたい言動をしていこうとする意欲を高める「ニコニコ忍術をつくらう！」、自分たちの取組の価値を振り返る「ニコニコ忍術大作戦事後活動」からなる一連の活動に取り組みせていくものである。

この活動を通して、相手の気持ちを考えた望ましい言動に気づき、自分たちの言動が報われた喜びや満足感を味わうことで、今後も相手の気持ちを考えた行動を積極的に続けていきたいという態度を育てることができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

学級活動と朝の会・帰りの会において 学級内で思いやりある言動を行い合う活動 相手の気持ちを大切にしたい望ましい言動を話し合い、その結果を「忍術」にまとめる活動 取組を振り返り、相手の気持ちを考えた言動を行う価値を話し合う活動を行うことにより、相手の気持ちを考えて行動しようとする態度が育まれた学級ができることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 一日の学校生活の中で、日直が学級内の友達に喜んでもらえることを内緒で行い、帰りの会において、だれに対して行ったのかを話し合う活動「めざせ！ニコニコ忍者」をお礼のメッセージを交換しながら繰り返し続けることにより、友達の喜ぶことを見つけようとする意欲を持てるだろう。
- 2 学級活動 「ニコニコ忍術をつくろう！」において、「めざせ！ニコニコ忍者」の課題を基に、相手の気持ちを大切にしたい望ましい言動について話し合った結果を生かして忍術作りを行い、学校全員を喜ばせる「ニコニコ忍術大作戦」へ向けての目当てを立てれば、相手の気持ちを大切にしたい言動をしていこうとする意欲が高まるだろう。
- 3 学級活動 「ニコニコ忍術大作戦事後活動」において、大作戦の記録を基に、相手の反応とそれを受けての自分の気持ちを出し合い、活動の意味を考えれば、相手の気持ちを考えて行動しようとする態度が育まれるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

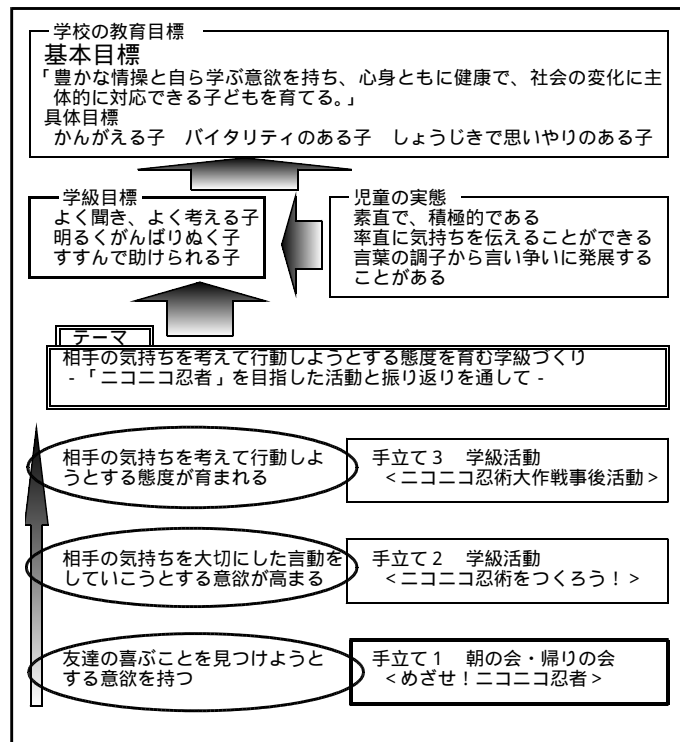
(1) 主題について

「相手の気持ちを考えて行動しようとする態度が育まれた学級」というのは、友達の喜ぶことを見つけようとする意欲を持ち、相手の気持ちを大切にしたい言動をしていこうとする意欲が高まり、相手の気持ちを考えた行動を取りながら生活していこうとする態度が育まれた、思いやりに満ちた人間関係で結ばれた学級であると考えている。

(2) ニコニコ忍者を目指した活動について

「ニコニコ」とは、相手の気持ちを考えた思いやりのある言動を行うことによって、相手の顔も心もにこやかにしようというメッセージである。「忍者」とは人に知られず秘密

全体構想図



裏に任務を遂行するというイメージが、押しつけることなく相手の気持ちを考えた言動を行うことが大切であること。また、「忍者」のイメージが子供たちの活動意欲を高めることを期待して名付けた。以上の考えの基に、ニコニコ忍者を目指した活動を計画した。(表1)

表1 ニコニコ忍者を目指した活動とその内容

活動名	主な活動内容	活動範囲など
めざせ！ニコニコ忍者	日直がその日の「ニコニコ忍者」となり、朝の会でくじ引きで選んだ2人の友達に喜んでもらえることを内緒で行い、帰りの会で、日直は誰の「ニコニコ忍者」だったのかを当てる話し合いを行う。当てられた子は、お礼のメッセージを「手裏剣カード」に書いて渡す。約1ヶ月間活動を続けた後に振り返る。	学級内での常時活動 約1ヶ月間
ニコニコ忍術を作ろう！	手裏剣カードや「めざせ！ニコニコ忍者」の取組の失敗体験を生かして、相手の気持ちを考えた望ましい言動を話し合い、その結果を「忍術」にたとえる。大作戦へ向けての思いを目標にまとめる。	学級活動
ニコニコ忍術大作戦！	4年生全員で、完成した忍術を使って、二週間の生活の中で学校全員(児童46名・教職員13名)に対して相手の気持ちを考えた思いやりのある言動を行っていく。毎日活動を振り返り、「大作戦の記録」に記録していく。	学校全体を対象とした常時活動 約二週間
ニコニコ忍術大作戦事後活動	「大作戦の記録」から、相手の反応と自分の気持ちの要素を抜き出し、活動の成果を考える話し合いを行い、忍術を続けていけばどんなクラスになれるのかを話し合う。これまでの活動を振り返る。	学級活動

2 実践の概要及び結果と考察

検証にあたっては、学級全体と抽出児の活動の様子、感想の記述の整理を中心に行う。抽出児A子は、相手が喜ぶことを「悪口を言わないこと」「わすれたらかすこと」と答えている。

(1) 友達の喜ぶことを見つけようとする意欲が持てたか。(見通し1)

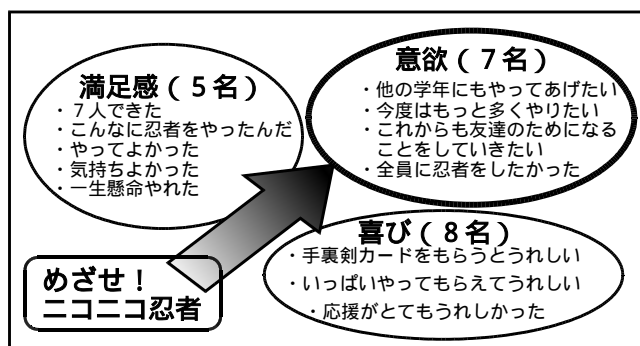
ア 実践の概要

9月中旬から、学級内で友達の喜ぶことを交代で行い合う「めざせ！ニコニコ忍者」の活動を行った。子供たちは、くじで引いた友達が喜ぶことを内緒で行ったり、誰の忍者だったのかを当てるゲーム的な要素を楽しみながら活動に取り組んだ。1人2度ずつ忍者となり、約1ヶ月活動を行い、最後に自分宛のお礼のメッセージである手裏剣カードを見て感想を書いた。

イ 結果と考察

お礼のメッセージを交換しながら活動した結果、子供たちは忍者になった時に、複数の喜ぶことを行ったり、くじで引いた子以外にも喜ぶことを行い始めるようになった。また、忍者でない子までも友達の喜ぶことを行う様子が見られるようになり、帰りの会で、活発にお互いの行動を発表し合うようになった。その結果、計77枚の手裏剣カードが集まった。資料1はクラス全体の活動後の感想を整理した図である。

資料1 「めざせ！ニコニコ忍者」感想の整理



資料2 A子の感想

忍者はあまりできなかったけど7人できたし、くじでひいていない人も言ってくれた。みんなやってない人まで、わすれないで、いっぱいいろいろな事をいってくれてうれしかった。

「いっぱいやってもらえてうれしい」「手裏剣カードをもらおううれしい」など自分のための言動をしてもらったことやお礼のカードをもらったことに

対する喜びの気持ちをあげている子供が8名いた。また、「やってよかった」「気持ちよかった」など、友達に喜んでもらえることができた満足感をあげている子供が5名いた。さらに、「他の学年にもやってあげたい」「ためになることをしていきたい」と、今後の活動への意欲を記述している子が7名いた。抽出児A子は、2回の忍者の機会に9回友達の喜ぶことを行った。また、活動後の感想(資料2)の記述から、自分なりに友だちが喜ぶことができた満足感と自分の行動が認められたことに喜びを感じながら活動に意欲的に取り組めたことが分かる。

これらのことから、本活動において自分のための言動をしてもらうこととお礼のメッセージ

をもらうことにより得た喜びや、友達の喜ぶことができた満足感が活動への意欲につながったと考えられる。

以上のことから、「めざせ！ニコニコ忍者」の活動をお礼のメッセージを交換しながらくり返し続けたことにより、友達の喜ぶことを見つけようとする意欲が持てたといえる。

(2) 相手の気持ちを大切にしたい言動をしていこうとする意欲が高まったか。(見通し2)

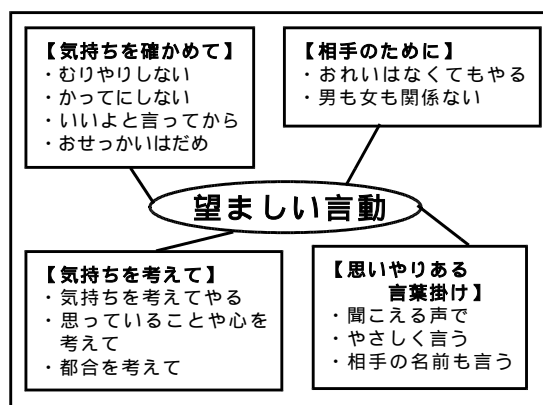
ア 実践の概要

学級活動「ニコニコ忍術をつくろう！」で、手裏剣カードを同じような内容ごとに分類し、「忍術」にたとえた。次に、「めざせ！ニコニコ忍者」の取組の失敗体験(ことわられた・取り合いになったなど)を出し合い、望ましい言動について話し合った。そして、それぞれの忍術の内容を「どのような時」に「どのように行う」というカードに当てはめる形で話し合い、決定した。最後に完成した忍術を使い、学校全員を喜ばせる「ニコニコ忍術大作戦」へ向けての目当てを考えて記述した。

イ 結果と考察

子供たちが考えた望ましい言動を整理すると資料3の4つに分類できた。資料4の出来上がった9種類の忍術を見た時に忍術の内容に「ひとりぼっちの子」「たいへんそうな時」など15カ所に相手の気持ちを考えた言動の要素が含まれている。また、すべての言葉掛けに相手を思いやる気持ちが表れており「もっていこうか」「やるうか」など6つの言葉掛けには相手の気持ちを確かめる要素も含まれている。これらのことから、子供たちは相手の気持ちを考えた言動を行う大切さに気づき、それを忍術の内容に生かしたことが分かる。

資料3 子供たちが考えた望ましい言動



資料4 子供たちが考えた忍術とその内容

忍術名	忍術の内容【「どのような」時に「どのように」行う術】
二人三きやくの術	ひとりぼっちの子・さみしそうな子に「いっしょに遊ぼうか」と言っていっしょに遊ぶ。
身がわりの術	たいへんそうな時にかわりに持ってあげる。「やるうか」「もっていこうか」と言っているいるやる。
ひろ速の術	なにかおちていた時、すばやくさりげなくひろってあげる。「はい」と言っておわたしてあげる。
いっしょの術	なげなやむ・たまっている・いそいでいる・あぐねている時「いっしょにやるうか?」と言って手つたう。
一人じゃないよの術	一人でなやむ・たまっている・なげなやむ時「どうしたの?」「なんなんだね」「そうだんにのろうか」とそうだんにのる。
はげましの術	荒手なことなどをやるとき、自信がなさそうな時、「力を信じろ」「へいきだよ」「元気だせよ」「きみならできる」とはげましてあげる。
かしてくれるぜの術	なげなやむ・たまっている時、かしてあげて「あしたはもってきなよ」と言う。
さしだしの術	ものがない人がいた時「これ使っているよ」「もってきなよ」とやさしく言う。
何でも聞いてみな術	勉強・コソコソ・意味がわからない時、ヒントをあげたり、教えてあげる。

資料5は、子供たちが記述した大作戦へ向けての目当てを整理したものである。

「秘密の作戦」であることを合い言葉に、全校を対象とした大作戦に向けて、「気持ちを確かめること」と「気持ちを込めること」を大切にしながら術を使っていこうとする意識が高まっていることが分かる。

A子は、大作戦の目当てに「やさしい言葉でOKをもら

ってからやる。かっけにもっていかれると、悪い気持ちにさせてしまうから。」と、相手の気持ちを確かめることの大切さを相手の立場に立って考えて記述している。これは、A子の心に相手の気持ちを大切にしようという思いが生まれてきた結果であるといえる。

以上のことから「めざせ！ニコニコ忍者」の課題を基に、相手の気持ちを大切にしたい望ましい言動について話し合った結果を生かして忍術作りを行い、学校全員を喜ばせるニコニコ忍者

大作戦へ向けての目当てを立てたことにより、相手の気持ちを大切にしたいという意欲が高まったといえる。

(3) 学級内に相手の気持ちを考えて行動しようとする態度が育まれたか。(見通し3)

ア 実践の概要

「ニコニコ忍者大作戦！」で子供たちが書いたための記録を配布し、忍術を行った時の相手の反応とそれを受けての自分の思いを発表し合い、板書で構造化した。次に、忍術を続けていけばどんなクラスになれるのかについて話し合った。最後に「が見つけた忍術の秘伝」という形で今までの取組を個々に振り返った。

イ 結果と考察

資料6は、話し合った結果を板書で構造化した図である。は、相手の反応を子供たちがまとめた言葉である。「2回もお礼を」や「今度も遊んでね」など感謝や喜びの言葉や「あとでしてあげるよ」や「パスをかえしてくれた」など思いやりある言動が多かった。はそれを受けての自分の思いをまとめた言葉である。「わたしもうれしく」「ためになってよかった」「また術を使いたい」などの言葉が多かった。これらのことから、子供たちは、自分たちの忍術が

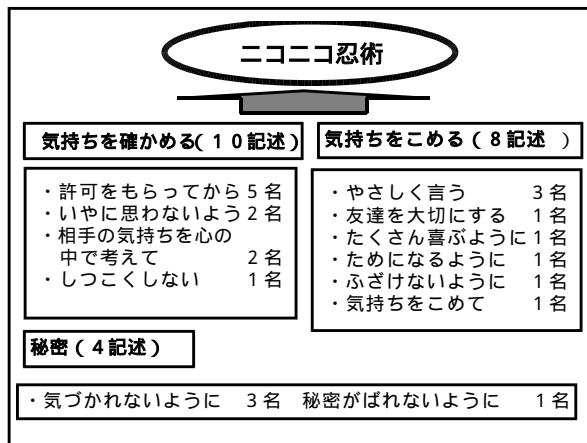
相手に喜びや感謝の気持ち、さらに、思いやりある言動を返したいという意欲を生み出したこと、また、そういった相手の温かい気持ちが、自分たちにさらなる喜びや満足感、そして行動化への意欲を生み出していることに気づいたことが分かる。

さらに、のどんなクラスになれるのかを話し合った結果を見た時に「みんながやさしくなれる」「なかよくなれる」などの記述から、相手の気持ちを考えた言動とよりよい学級とのつながりに気づいたことが分かる。

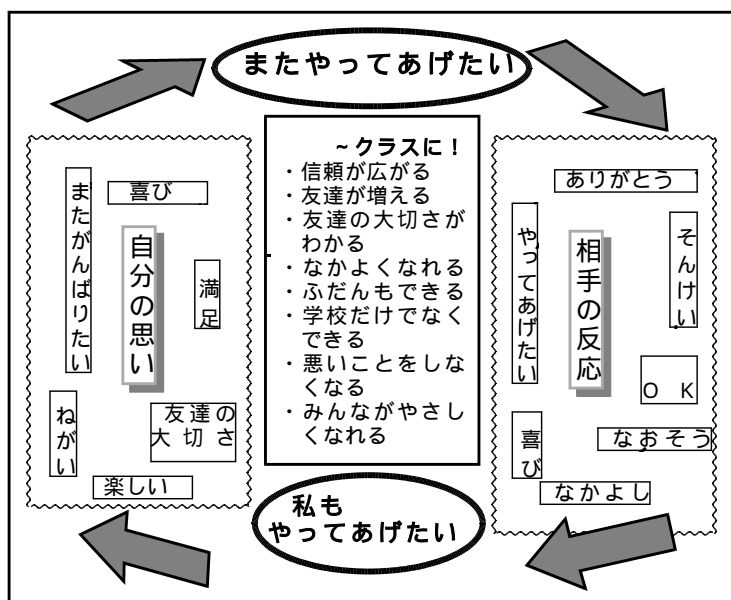
資料7は、「が見つけた忍術の秘伝」という形で記述したワークシートを構造化したものである。情意面に関する記述が8、価値に関する記述が14、これからの行動に関する記述が13あった。さらに、3つを結びつけて記述している子供が5名いた。これらのことから、大作戦の取組を通して得た喜びや充実感という情意面の高まりが、相手の気持ちを考えた言動の価値への気づきとなって表れ、学級から学校、そして家庭・地域社会にまで術を使っていきたいという思いが学級に高まってきていることが分かる。

A子は学級で一番多くの24人に術を使った。振り返りの記述(資料8)から「最初は何をやっていたかわからなかったけれどいろいろな人に喜んでもらいたい、ためになってもらいたい

資料5 「大作戦へ向けての目当て」の整理



資料6 ニコニコ忍術の価値の構造化



と思いながらやったら、だんだんできるようになりました」と相手のことを考えた言動が取れるようになった自分の変化に気づいたことが分かる。また、「やさしいお返しがうれしかった。これからも喜んでもらえるように忍術をつかっていきたい。そして、クラスみんながやさしくなるようにしたい」と記述し、やさしさがやさしさを生み出したことに喜びを感じ、今後の学級の成長へと思いが高まっていることが分かる。

これらのことから、大作戦の記録を基に、相手の反応とそれを受けての自分の気持ちを出し合い、活動の意味を考えたことにより、子供たちは相手の気持ちを考えた言動を行うすばらしさに気づき、これからも相手の気持ちを考えた行動を積極的に続けていきたいという姿勢を持てたことが分かる。

以上のことから、相手の気持ちを考えて行動しようとする態度が育まれてきているといえる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

学級内で相手の気持ちを考えた言動を行い合うことにより得た喜びや満足感が、友達の喜ぶことを見つけようとする意欲につながった。

自分たちの体験を基に話し合った望ましい言動を「忍術」にまとめていく過程で、子供たちは、相手の気持ちを考える必要性や大切さに気づき、「忍術」を使って学校全員に対して気持ちを大切にしたい言動をしていこうとする意欲が高まった。

相手を思いやる言動を行う体験を積み重ね、その価値を話し合うことにより、自分たちの取組のすばらしさに気づき、よりよい学級を作るために相手の気持ちを考えて行動しようとする思いが深まった。

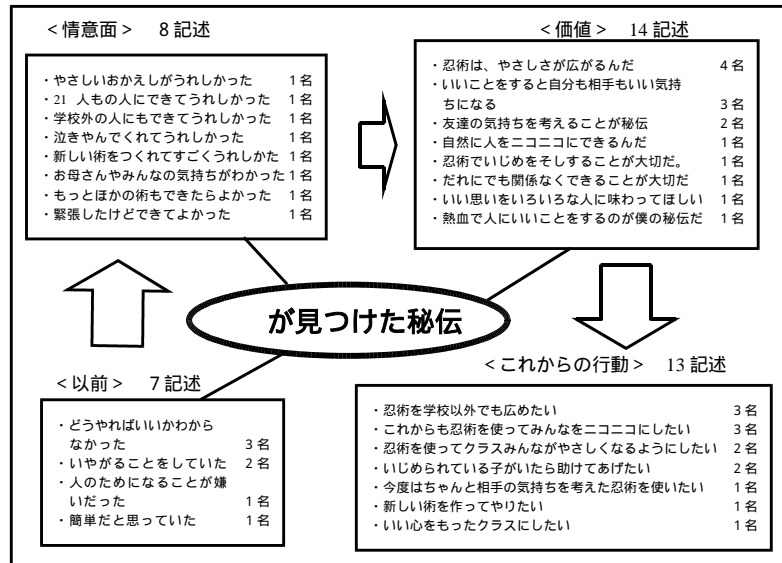
2 今後の課題

「ニコニコ忍術」を合い言葉に、今後も相手の気持ちを考えた言動が取れるよう、常時活動の中で、子供たちの発想を生かした「忍者活動」を継続していくことが大切である。

<参考文献>

- ・松永昌幸 編 『小学校学級づくりゲーム&エクササイズ3・4年』 明治図書(2000)

資料7 「が見つけた忍術の秘伝」の構造化



資料8 A子が見つけた忍術の秘伝

私は、最初は何をやっていいかわからなかったことがあったけど、いろいろな人に喜んでもらいたい、ためになってももらいたいと思いながらやったら、だんだんできるようになりました。私が一番心に残った忍術は、5年生のちゃんにやった忍術です。私が「一輪車をもっていきよ。」と言ったら私の竹馬をかわりにもっていかれたからです。やさしいお返しをしてくれたからとてもうれしかったです。私は、「やさしさが広がる忍術」がいいと思いました。これからも、ちゃんにやってみたくて相手に喜んでもらうようにいろいろな忍術を使っていきたいです。そして、クラスみんながやさしくなるようにしたいです。

